



2016年10月28日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社
代表者 代表取締役社長 CEO 畑中 好彦
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東証 (第一部)
決算期 3月
問い合わせ先 広報部長 臼井 政明
Tel: (03)3244-3201

2016年度第2四半期の連結業績について

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、2017年3月期(以下「2016年度」)第2四半期累計期間(2016年4月1日から2016年9月30日)の連結業績を発表しましたのでお知らせします。

【当第2四半期累計期間の業績ハイライト】

- 売上高は減収(前年同期比 5.2%減)、但し、為替の影響を除くと約 4%増収。コア営業利益(同 14.7%増)及びコア四半期純利益(同 16.0%増)は増益
- XTANDI®/イクスタンジ®は引き続き伸長。一方で、過活動膀胱(以下「OAB」)治療剤は為替の影響により減少
- 日本は薬価改定の影響等により減収。EMEA は増収。米州、アジア・オセアニアは減収、但し、為替の影響を除くとそれぞれ増収。
- 2016年5月に公表した、本年度の通期連結業績予想を修正(売上高を下方修正、コア営業利益及びコア当期純利益を上方修正)
- 持続的な成長に向けた戦略課題への取り組みを着実に推進

アステラス製薬の代表取締役社長 CEO の畑中 好彦は、次のように述べています。「主要グローバル製品である前立腺がん治療剤 XTANDI®/イクスタンジ®、OAB 治療剤ベタニス®/ミラベトリック®/ベットミガ等がけん引し、ビジネスは順調に推移しています。更に、新製品の発売、イノベーションや事業基盤強化への投資を通じて、中長期にわたる持続的な成長シナリオを着実に盤石なものにしています。私たちは経営計画で掲げる『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』の3つの戦略課題への取り組みを引き続き推進していくことで、患者さんをはじめとしたステークホルダーに価値を届けることができるものと確信しています。」

<コア連結業績(2016年4月1日から2016年9月30日)>

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 (2016年3月期)	当第2四半期累計 (2017年3月期)	対前年同期増減額 (増減率)
売上高	687,501	651,673	△35,828 (△5.2%)
コア営業利益	145,170	166,455	21,285 (14.7%)
コア四半期純利益	103,938	120,569	16,631 (16.0%)
基本的1株当たり コア四半期純利益(円)	47.76	56.75	8.99 (18.8%)

【為替の業績への影響】

当第2四半期累計期間の為替レートは、下表の通りです。これらの結果、前第2四半期累計期間の為替レートを適用した場合と比べ、売上高においては641億円の減収、コア営業利益においては125億円の減益の影響がありました。

期中平均レート	前第2四半期累計	当第2四半期累計	変動
米ドル/円	122	105	17円高
ユーロ/円	135	118	17円高

期首・期末の変動	前第2四半期累計	当第2四半期累計
米ドル/円	0円高	12円高
ユーロ/円	5円安	14円高

【売上高の状況】

売上高は、為替の影響に加え、本年4月に日本で実施された薬価改定の影響等もあり、6,517億円(同5.2%減)となりました。但し、為替の影響を除くと前年同期に比べ約4%の増収となりました。グローバル製品については、XTANDI®/イクスタンジ®の売上が拡大した一方で、ベシケア®とベタニス®/ミラベトリック®/ベットミガを合わせたOAB治療剤の売上は為替の影響により減少しました。また、免疫抑制剤プログラブ®の売上も減少しました。

<地域別売上高の状況¹>

- 日本の売上高は 2,372 億円(同 4.0%減)となりました。このうち、日本市場での売上高は薬価改定の影響等もあり 2,218 億円(同 7.6%減)となりました。ベシケア[®]とベタニス[®]を合わせた OAB 治療剤、消炎鎮痛剤セレコックス[®]、成人気管支喘息治療剤シムビコート[®]、2 型糖尿病治療剤スーグラ[®]等の売上が拡大しました。イクスタンジ[®]の売上は薬価改定の影響を受け減少しました。また、ワクチンの売上が昨年度に実施された製造元の出荷自粛(一部の製品については既に出荷再開)の影響が続いたこと等により減少したほか、高コレステロール血症治療剤リピトール[®]や消化性潰瘍・胃炎治療剤ガスター[®]等の売上が、後発医薬品の影響等により減少しました。
- 米州の売上高は 2,066 億円(同 11.3%減)となりました。なお、米ドルベースでの売上高は 1,963 百万ドル(同 2.6%増)となりました。アゾール系抗真菌剤クレセンバが売上に貢献しました。XTANDI[®]、ベシケア[®]とミラベトリック[®]を合わせた OAB 治療剤のほか、心機能検査補助剤レキスキャン等の売上が為替の影響により減少しましたが、米ドルベースでの売上はそれぞれ拡大しました。プログラフ[®]の売上は減少しました。
- EMEA²の売上高は 1,661 億円(同 2.3%増)、ユーロベースでは 1,406 百万ユーロ(同 17.0%増)となりました。XTANDI[®]の売上が拡大した一方で、ベシケア[®]とベットミガを合わせた OAB 治療剤、プログラフ[®]の売上は為替の影響等により減少しました。尚、プログラフ[®]のユーロベースでの売上は拡大しました。
- アジア・オセアニアの売上高は 418 億円(同 7.6%減)となりました。XTANDI[®]、ベシケア[®]とベットミガを合わせた OAB 治療剤の売上は増加しました。一方で、前立腺肥大症の排尿障害改善剤ハルナール[®]及びプログラフ[®]の売上は為替の影響等により減少しました。

【コア営業利益／コア四半期純利益の状況】

- 売上高の減少に伴い、売上総利益は 5,055 億円(同 2.6%減)となりました。尚、売上原価率は製品構成の変化に加え、グループ間取引における未実現利益消去に伴う為替の影響等により、前年同期に比べ 2.1 ポイント低下し、22.4%となりました。
- 販売費及び一般管理費は、為替の影響等により、2,208 億円(同 7.9%減)となりました。

¹ 地域別売上高については売上元会社の所在地に基づき集計しています。

² EMEA: 欧州・中東・アフリカ

- 研究開発費は、為替の影響等により、997 億円(同 11.0%減)となりました。対売上高研究開発費比率は、前年同期に比べ 1.0 ポイント低下し、15.3%となりました。
- 無形資産償却費は、177 億円(同 19.2%減)となりました。

以上の結果、コア営業利益は 1,665 億円(同 14.7%増)となりました。また、コア四半期純利益は 1,206 億円(同 16.0%増)、基本的 1 株当たりコア四半期純利益は 56.75 円(同 18.8%増)となりました。

本年 4 月にグローバル皮膚科事業を譲渡したことに伴い、譲渡された製品の売上、諸経費が計上されない一方で、受領した譲渡対価を一定期間にわたり収益として認識しています。この結果、当第 2 四半期累計期間において売上高、利益に一定程度のプラスの影響がありました。

【2016 年度連結業績予想】

当第 2 四半期累計期間までの状況と為替の動向を踏まえ、2016 年 5 月に公表しました業績予想(以下、「期初予想」)から売上高を下方修正、コア営業利益及びコア当期純利益を上方修正しています。なお、想定為替レートを変更したことにより、期初想定の為替レートを適用した場合と比べ、売上高、コア営業利益においてそれぞれ 568 億円、100 億円の減少を見込んでいます。

<通期連結業績予想(コアベース)>

(単位:百万円)

	2016 年 3 月期 通期実績	2017 年 3 月期 通期予想	増減額 (増減率)
売 上 高	1,372,706	1,300,000	△72,706 (△5.3%)
コア営業利益	267,456	274,000	6,544 (2.4%)
コア当期純利益	198,802	202,000	3,198 (1.6%)
基本的 1 株当たり コア当期純利益(円)	92.12	95.07	2.96 (3.2%)

【当第 2 四半期における戦略課題への取り組み】

アステラス製薬は、『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』への取り組みを通じて、中長期にわたる持続的な成長を目指していきます。

<製品価値の最大化>

- XTANDI®を中心とするがん領域フランチャイズ及びベシケア®とベタニス®/ミラベトリック®/ベットミガを合わせた OAB フランチャイズの最大化のため、引き続き発売国及び売上を拡大

<イノベーションの創出>

- 新たな取り組み
 - Cytokinetics, Inc. (米国)との骨格筋活性化剤に関する提携契約を改定し、提携範囲を拡大。CK-2127107 の開発対象疾患に筋萎縮性側索硬化症を追加
 - MPM Capital, Inc. (米国)と共同で、デジタルヘルス領域における投資会社 DigiTx Partners LLC (米国)を設立

<Operational Excellence の追求>

- 生産子会社アステラス ファーマ テクノロジーズ Inc. (米国)の全株式を Avara Norman Pharmaceutical Services, Inc. (米国)へ譲渡

2016 年度第 2 四半期連結業績の詳細及びその他の決算関連情報については、当社ホームページ (<https://www.astellas.com/jp/ir/library/index.html>) をご覧ください。

以上

注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述及びその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知及び未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化及び関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品及び既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。